

しんせう

第19号



97年11月98年1月合併
(財) 日本野鳥の会三重県支部

今号の表紙を飾って下さったのは、愛媛から桑名に引っ越していらっしやった松井明美さんです。

以下松井さんのコメントです。

「みなさんはじめまして。

昨年春、愛媛から桑名へ引っ越してお仲間に入れていただきました。どうかよろしく願いいたします。日本野鳥の会に入会して4年目になるというのに探鳥会に行ったのはたった4～5回というなまけ者のバードウォッチャーですが、これからはいろいろなイベントにも参加したいと思っています。

愛媛では、冬になると庭のバードテーブルに沢山の野鳥が来てくれたものでした。それで鳥の種類や名前を覚えたいです。たぶん近くには豊かな自然が残っていたのでしょね。ここ桑名でも車の交通量は多いものの、まだまだ小川や田んぼやヤブが残っているので、これから自分のフィールドが見つけれたらいいなと思っています。

それと、フクロウを探しています。

野鳥の会に入会したはじめての年に、巣から落ちて保護されたフクロウのヒナを見せていただいたことがあり、そのなんともいえない神秘的な可愛さにすっかり魅せられてしまいました。鳥でもなく、人でもない、他のどんな動物にも似ていないフクロウの子供だけのもつ不思議な雰囲気。どうしてももう一度見たいものだと思います。またフクロウの生態や親についても知りたいのです。写真や資料、小さなものでもかまいません、どなたかご存じでしたら教えて下さいませんか？

それから、自分で見た鳥や植物を絵に描く、それが私の趣味です。

今年のバードウィークには、三重へ来て初めての展覧会をひらきます。(詳細別記) フクロウの絵もいくつか出品します。もしご覧いただく機会がありましたら、ご感想をどうかお聞かせ下さい。 松井明美

目次

今月の表紙 メジロ 松井 明美

研究部報告	3～4
台風とシロチドリ	5
ヤマドリに魅せられて	6
アルバトロス、目の錯覚、三すくみ	7
ミサゴに思う	8
私のジョウビタキ	9
探鳥会報告	10～12
つけよう！いかそう！フィールドノート研修会	13～17

研究部報告

研究部長 木村裕之

☆平成8年度ガン・カモ類一斉調査（1997年1月）

平成8年度より、ガンカモ調査は「ガン・カモ類一斉調査委託事業」として、三重県より日本野鳥の会三重県支部に委託されるようになりました。この委託により調査場所が非常に増えて、支部報上では全部の結果を発表できなくなりました。ここに示したのは三重県が発表した調査結果の集計表の一部です（調査地248カ所の内、一部は県の職員等の調査）。報告が遅れて申し訳なく思います。

1997年1月ガン・カモ類一斉調査結果（調査地248カ所）

種 類	個体数	確認調査地数
オシドリ	238	8
マガモ	5,245	86
カルガモ	2,269	77
コガモ	5,281	87
ヨシガモ	121	8
オカヨシガモ	1,079	31
ヒドリガモ	9,723	58
オナガガモ	3,423	27
ハシビロガモ	884	27
ホシハジロ	14,203	63
キンクロハジロ	1,949	51
スズガモ	6,289	13
クロガモ	5	1
トモエガモ	1	1
ホオジロガモ	24	2
ウミアイサ	272	7
ミコアイサ	7	3
アメリカヒドリ	4	3
不 明	940	6
計	51,957	

【調査地別個体数ベスト5】

岩田池（津市）	8,123羽
江戸橋養魚場（津市）	3,274羽
穴川（磯部町）	2,590羽
宮川河口（伊勢市）	2,028羽
高砂養魚場西池（香良洲町）	1,959羽

【調査地別種類数ベスト5】

安濃川河口（津市）	12種
員弁川河口（桑名市、朝日町）	10種
宝光池（松阪市）	10種
江戸橋養魚場（津市）	10種
山村ダム（四日市市）	9種

☆平成9年度鳥獣保護区設定効果調査

ガン・カモ類一斉調査と同様三重県の委託で行っています。

平成9年度の調査地は平成10年設定予定の南勢町切原鳥獣保護区と南島町道方・池の田鳥獣保護区です。

☆シギ・チドリ全国カウント

日本湿地ネットワーク シギ・チドリ委員会の「シギ・チドリ全国カウント」に参加しています。1997年春には三重県支部は◆鈴鹿川河口～鈴鹿川派川河口◆安濃川河口、志登茂川河口、秋には春のカウントに加えて◆愛宕川～櫛田川河口でもカウントを行いました。

【1997年春】

	鈴鹿川河口～	田中川河口	安濃川河口
	鈴鹿川派川河口		志登茂川河口
	1997. 5. 12 木村京子	1997. 5. 10 平井正志	1997. 5. 10 平井正志
ダイゼン	1		
シロチドリ	16	7	5
メダイチドリ	5	2	8
チュウシャクシギ	51	3	9
ソリハシシギ	1	1	
イソシギ	1		
キアシシギ	37		48
キョウジョシギ	146		
ミユビシギ	80		
ハマシギ	150		4
計	488	13	74

【1997年秋】

	鈴鹿川河口～	田中川河口		安濃川河口		愛宕川～
	鈴鹿川派川河口	1997. 9. 7	1997. 9. 13	志登茂川河口		櫛田川河口
		橋本祐子	平井正志	橋本富三	西浦克征 西浦恵子	1997. 9. 13 谷本勢津雄 中村洋子、宮田たつ
タマシギ						2
ムナグロ	4					
ダイゼン		1				2
コチドリ						13
シロチドリ	105	53	19	18	31	3
メダイチドリ	2		1	3		
ケリ	8				2	8
タシギ						3
オオソリハシシギ					1	
チュウシャクシギ		5				3
ダイシャクシギ						1
アカアシシギ						1
コアオアシシギ						2
アオアシシギ	1				1	20
クサシギ						1
タカブシギ				2		16
ソリハシシギ			5	12	5	14
イソシギ	3	2			1	6
キアシシギ	26	14	1	8	12	7
キョウジョシギ		1				
ミユビシギ		3				
トウネン	1		1	22	17	95
ハマシギ						9
エリマキシギ						1
計	150	79	27	65	70	207

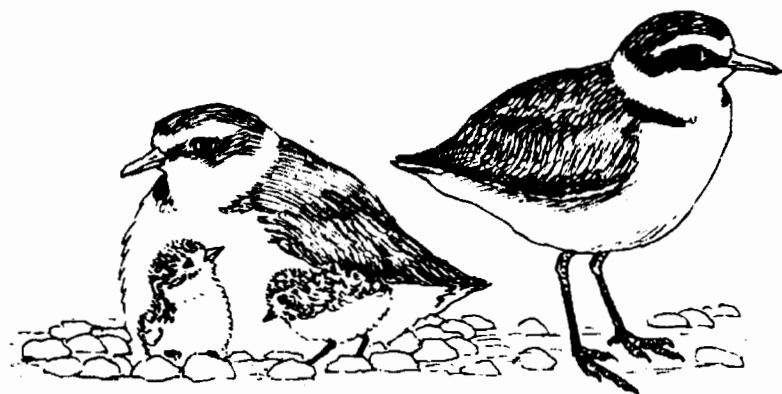
台風とシロチドリ

平井正志

シロチドリの繁殖を調査している海岸の南の端は三重大学のキャンパスに近く、休日には海岸に多数の自動車が入り込み、繁殖の条件としては良くない。

この海岸では今年は4月に1つの営巣があったが失敗し、その後はさっぱりであった。台風7号の通過した後の6月21日その南端に1つの巣を見つけた。

台風8号の近づいてきた28日その巣はすでになかった。やはりまた失敗かと思ったが、すぐ目の前にヒナがこちらを向いてじっと立っていた。ほんの5~6mの距離である。それも3羽である。今年の孵化の率はきわめて悪く、これまで合計30巣あまりを調査してやっと2巣



が孵化しただけだったので、ほっとした。その内1羽には脚輪を付けることができた。その後夜台風8号が通過した。雨はさして強い方ではなかったが、夜半を過ぎてから風が急に強くなりだした。寝ていてもあのヒナのことが気になった。バンディングの際に少なからず、ストレスを与えている。ひょっとするとそれが原因で、親鳥からはぐれていないだろうか？この風の中では親鳥から離れれば即ち死を意味するであろう。その風は

朝まで猛威をふるった。翌日風が収まってからそのヒナを見に行った。幸いにも3羽とも無事で砂浜を走り回っていた。あの台風の中、母鳥の胸の下でじっと耐えていたのであろう。先日脚輪を付けていなかった2羽にも脚輪を付けることができた。前のヒナより少し小さいヒナであった。この巣より200mほど北にあった巣は波をかぶり、砂に埋もれて、どこに巣があったのかもわからなくなっていた。

この台風の中もうひとつ心配な巣があった。昨年ウミガメの上陸した津市の白塚海岸の巣である。6月8日に発見してからまだ抱卵が続いていた。同じ日に見に行ってみると確かにまだ抱卵を続けていた。あの台風の中で、抱卵し続けていたのだ。海岸からはかなり離れていて、波をかぶることはな

かっただろうが、風はすさまじかったであろう。巣の周辺の草は半ば砂に埋もれていた。もし親鳥が風雨の中で巣を離れたなら、卵は砂に埋もれてしまったであろう。この親鳥は結局2度の台風の中で抱卵を続けて、7月1日には2羽のヒナが見られた。5日には3羽のヒナが親鳥に付き添われていたので結局3卵とも

無事に孵化したようだ。海岸の散歩やレジャーなどの人間による錯乱にはあれほど弱いシロチドリの抱卵も自然現象の台風には信じられないほど強いようである。これからキス釣りや海岸でのレジャーシーズンである。孵化したヒナが無事に飛べるまで育てられるであろうか。親鳥の勇気と忍耐、そしてヒナ達の体力にすべてを託すしかない。

1997年 7月 5日

ヤマドリに魅せられて

高橋松人

私がヤマドリと初めて出逢ったのは、小学2年生の秋だった。「ヤマドリは真夜中、長い尾を人魂の様に赤く光らせて飛ぶ。」と聞かされていたので、無気味な怖い鳥だと思いついていた。近所の遊び仲間と近くの山へ、きのこ採りに行った際、私は赤松林のゆるやかな尾根を仲間の先頭に立って登っていった。

突然、反対側の藪の中から、何か赤茶色のものが飛び出してきた途端、私の目の前でくると急ターンして「チャ、チャ、チャ」と激しい鳴き声を残して、長い尾のヤマドリが藪の中へ走り去った。一瞬の出来事に目を見張った私は、60年近く経た今でもその美しさが目に焼き付いている。

冬の雄のグループを観察すると尾の長さはまちまちで、中央の二本の尾羽は特に長く、9~12の横斑がある。尾羽の色は長い程淡く、短いものは濃く若い鳥である。藪の生い茂った斜面を自由に歩き廻ってよく長い尾羽を損傷しないものだと不思議に思っていたが、最近ようやくその謎が解けた。雄は斜面を下る時長い尾をやや上に持ち上げ、中程で右側に折り曲げていたのである。尾羽根を途中で曲げる事が出来ようとは、思いもよらぬ事であった。そして危険を感じた時、木々の間を目にも止まらぬ速さでさっと飛び去る俗にいう「ヤマドリの沢下り」も尾羽根ばかりでなく、翼も器用に曲げられる結果の離れ業かも知れないと思うようになった。

野鳥に関する書物は沢山出版されているが、権威ある専門書でもヤマドリは一夫多妻と記載されており、羽衣（ホロ）打ちや鳴き声についても、正確な記載が無いし、写真も良いものは見掛けない。昔からキジ同様に剥製にして床の間に飾ったり、絵画に描かれたりして身近な鳥であったにもかかわらず、山地では森林性の鳥なので姿を見るのは容易ではなく、春先のホロ打ちでようやくその存在を知る程度である。私も長年ヤマドリを追い求めていたが、留鳥でいながら観察しやすい時期は一年の内です。

日間ほどしかない。

冬になると雄と雌は別れて数羽ずつのグループを作る。根雪の上に雄の長い尾が大きく開いた状態で着地した跡が、足跡と共に印されている。雌はわずかな尾羽の跡が残っているだけである。一夫多妻と云われているが、私の観察範囲では一夫一妻で、雄のホロ打ちも自分のボディに両翼を打ちつけるとか、地面に伏せて羽で地面を叩いて音を出す等色々推測されているが、実際は尻と長い尾を地面につけて、垂直に近い姿勢で両翼を広げてはばたくだけである。翼を震わせて空気を震動させて「ドドドド・・・」と云う地鳴りの様な力強い音を出している。何とか録音しようと思えば集音マイクをいくら近づけても「パサ、パサ」という羽音しか入らない。どうもマイクではキャッチ出来ない音らしく残念であった。

番形成期（3、4月）になると数羽の雌のグループを、2~3羽の雄が取り囲んで朝暗い内から弱く一回だけのホロ打ちを何度も繰り返し行って雌を誘う。その中の一羽の雄に対し、雌が「チイツ、チイツ」と呼応すると雄は低い声で「クウ、クウ」と鳴きながら接近してくる。番が形成されると縄張りに侵入した雄に対し、森中に響く程鋭く高い声で「チツ、チツ、チツ、チツ」と鳴いて、猛スピードで森の中を走り廻り侵入者を追い立てる。倒木や重なった枯木の下を地面を少しくぼませて巣を作る。抱卵中の雌が一日一回の採餌時間になると雄は巣の近くへ来て軽くホロ打ちをする。午後二時前後が多い。雌はそれを聞くとすぐ巣から出て来て倒木伝いに地上を歩くことなく採餌に向かう。巣から十メートル程の範囲ではキツネやテン等の外敵に対する防御のために地面に臭いを残さぬ様になっていると思われる。7~8羽のヒナが孵化すると、母親はヒナを連れてすぐ巣から離れ、外敵に遭遇すると擬傷動作に似た仕草でヒナを守る。雄の警戒時のホロ打ちには「ブル、ブル、ブル」と連続三回行う。ホロ打ちは囀り同様に色々な意味があるらしく目的によっては音、回数、強弱が微妙に違っている。

アルバトロス

二宮 孝

小学生の時、社会の真新しい地図帖を買って貰い、三重県の地形を見て、これはタツの落とし子みたいだ、愛知県は蟹さんだ、岐阜県は子犬に似ている、と友達と話し合った楽しい思い出があります。

大人になって、たいした進歩はないが最近鳥の形に見えてきました。頭部は伊勢市で、クチバシは大王町、左翼は北勢地方で、右翼は熊野地方である。尾羽は上野市だ。人口180余万の人間達を背に乗せて大きく羽ばたいている形に見えます。

世界一の超々鳥である。行き先は大太平洋を飛び越えて、ペルーか、アルゼンチンか、或いは尾羽の様子から察すると一変してベーリング海か、北極海か、いずれにしても世界一周は眼たく間だ。

鳥の名称は、アホウ鳥と言うとイメージが良くないので海洋鳥のアルバトロスにしよう。いやいや、クチバシの形状から見ると猛禽類かもしれない。翼が広いからクマタカかな。頭が尖っているからハチクマかな。エエッ面倒だ、ハチタカにしよう。好き勝手な妄想を書いていると、コウモリ科コウモリ属の亜種だと横ヤリが入ってきそうだ。そうなっちゃ終いだ。

山々は人工林に覆われ、丘陵はゴルフ場に占領され、河川は葦を切られてコンクリートで固められ、水際の養魚場は産業廃棄物で埋め立てられ、海は発砲スチロールの住処となる。野鳥を捜すのも楽でない。楽でないから歩くとするか。歩けば身体に良いとヒト目ヒト科が言う。

いつの日か、三重県がその形の様に、野鳥の王国になればいいですね。

申し忘れましたが、超々鳥の眼は磯部町の伊雑ノ浦に決めました。

眼の錯覚

二宮 孝

それは、稲刈りが半分程済んだ今年の秋の事でした。朝6時頃会社に出勤する為、車を走らせていると刈り残された田んぼの稲の穂の上にコサギがチョコンと座っているのが眼に入りました。それも4羽から5羽、その上を3、4羽が飛び回っていました。なにげなく見て通り過ぎましたが運転をしながら“アレッ”待てよ、コサギは稲ほど足は長くない、そうかと言って稲に乗れるほど軽くない筈だ。おかしい、確かに間違いなく“フンワリ”と座って微かに揺れていたのだから。

多分若鳥が面白半分にやってみただろうが足元はどうなっていたのだろうか、一束の稲束を足指を上下にして掴んでいたのだろうか、或いは、隣の稲束と2束

を左右の足指で掴んで奮張っていたのであろうか、その日一日はモヤモヤとした気分でした。

その後通る度に注意して見ましたが稲が刈り取られる迄一度もありませんでした。

寝呆け眼で運転していたせいでしょうか今でも不思議な光景として心の中に残っています。それは錯覚でないか否定して下さる方が居れば有り難いことです。

三すくみ

二宮 孝

ある晴れた休日、いつも行くフィールドに何か出てくるといいなと、いそいそと出かけました。細い山道にさしかかると後ろからすごい勢いで軽トラックが追いついてきました。私は鳥の声を聞きながら、ゆっくりと走らせていたので、あわてて道の広いところを見つけて、軽四を遣り過ぎました。

目的地で首から双眼鏡を掛け、肩にスコープを担いで樹林の間を歩き始めました。しばらく行くと鳥達のにぎやかな鳴き声が聞こえてきました。これは幸先が良いと、目と耳をきよろきよろさせながら忍び足で登っていきますと、先ほど追い越していった軽四ともう一台の軽四が停めてあり、二人の男が立っていました。傍らの木の枝にはカセットが掛けてあり鳥の声が大きく流されていました。これは密猟者だ困った人たちだ。相手が先に頭を下げたので私も無然として頭を軽く下げ脇を通り抜けました。(1人なので何も言えない) 天気が良くて空が抜けるように青かったが鳥達は姿を現さない。大きな木の梢で何か囁いている。山道をはずれてその見えるところまで登っていったが逃げられてしまった。見てもしようがないヒヨドリが大きな声を出していたので双眼鏡で見たらちょっと離れたところに雛がとまっていて、たぶん親鳥が私を見つけ危険だから、こっちへおいでとしきりに雛を呼んでいるところでした。密猟者のおかげで鳥がいなくなったと八つ当たりをして帰路に就きました。しばらく下っていくと中年の男性2人と女性1人に遭遇しました。よく見ると手にゴミ鋏と袋のようなものを腰に下げ長靴を履いていました。ウム、ひよっとするとマムシ取りの人達か、多分そうだろう。とすると私が入っていった足下でマムシがとぐろを巻いていたのだろうか、考えただけでゾッとしました。軽四の置いてあった所を通り掛かりますと密猟者達は煙のように消えていきました。それはたぶん私のせいではなく双眼鏡とスコープの威力だったのでしょうか。マムシ取りの人達が密猟者を恐れたかどうかは定かではないが……………。

ミサゴに思う

小坂 里香

ミサゴは私の好きな鳥である。冬の宮川河口がカモ類やカモメ類でにぎわう中、スコープを沖に向けると、必ず数羽のミサゴの姿を見つけることができる。その日は3羽ほどのミサゴが、杭の上で羽繕いをしているのが見られた。

河川敷の公園に車を停め、車中で昼食を取りながら海の方を見ていた時のことである。広い河口の中程に水しぶきが立つのを視界の端にとらえ、とっさに、ミサゴのダイビングだ、と直感して双眼鏡を覗いた。まさしく、一羽のミサゴが翼で海面を打ち、飛び立ったところだ。魚を捕まえ損ねたらしく、いったん飛び去ったかに見えたが再びやってきて、水中をにらんだまま旋回する。そして、もう一度ダイブ。今度は、しっかりとつかんだらしい。猛然と羽ばたいて、空中に魚を連れ出そうとしている。

ところが、易々とは飛び立てないのである。2度、3度、試みたあと、疲れたように翼をだらりと垂らしたまま、水中で動かなくなってしまった。水面からミサゴの頭部だけがぽっかりと浮かんでいる滑稽さとは裏腹に、見ているこちらは気が気でない。

以前にもこんな光景に出くわしたことがあったが、そのときのミサゴは格闘の末、悠然と魚を掴んで飛び去った。この素晴らしいハンターに私たちが捧げられるものが、尊敬のまなざしと、ダイオキシンをたっぷり含んだ魚しかいないことが残念で仕方がない。

しかし、今回のミサゴは獲物が大きすぎたのか、空腹で力がでないのか、どうしても飛び立てないらしいのだ。さらに、その窮状に気づいたカモメの群が、獲物を横取りしようと突っかかってきたのも憎らしい。

身に余る大魚に爪を打ち込んだばかりに、海中に引きずり込まれ、肉が朽ち果てるまで海を漂うミサゴの話聞いたことがある。獲物は大きいほど、漁の効率は良いが、余り大きいと狩る身の生命に危険が及ぶ。ぎりぎりの選択に迫られながら、ほとんど賭をするように、彼らは冬の海に飛び込んでいくのだ。賭けているのは命である。何という、現実感

に満ちた食事だろう。

翻って、私たち人間(日本人)の食卓の、この現実感の欠如はどうだろう。手を血や泥で汚すこともなく、生命を危険にさらすこともなくして、世界中のあらゆるものを供することができる。魔法の食卓。その魔法が聞かなくなる日がこないとは、誰にも断言できない。そのときこそ、私たちもミサゴのように、自分の命を自分で繋ぎ止めるための、確かな食事を自ら手に入れなければならなくなるのかもしれない。

さて、私のミサゴはその後どうなったか。彼は、結局命を落とすこともないかわりに、食事にありつくこともできなかった。ようやく魚が爪からはずれ、カモメ達に追われながら海から解放されて、少し離れた中州に上陸し、照れ隠しのように盛んに羽繕いを始めた。暖冬とはいえ、冷たい河口の水が、身体の芯までしみ込んでいたことだろう。

3度目の漁の成功を見届けたい気がしたが、彼にはしばらくその気力がなさそうだったし、残念ながら私ももう行かなければならなかった。



みさご 鶺鴒 4 首

魚喰らふ鷹うおくらと生まれて凍てる海に

三度挑むみたびや鶺鴒のダイブ

猛禽あに生まれし宿命さだめの重ければ

飛びまちなかねて鶺鴒没しぬ

撃ち込みし爪のはずれで海に飲まるる

鶺鴒ありとふ大魚たいぎよつかみて

鶺鴒翔ける宙そらを見上げぬ魚のごと

大気みなぞこの海の水底みなぞこにゐて

私のジョウビタキ

菰野町 岡崎正郎

25年程前、大羽根園に移り住むようになってから2～3年後の11月小春日和の或る日、我が家の生け垣を飛び越え道路先隣家の門にとまった、美しい鳥を見て感動したのがジョウビタキを見始めた始まりです。

「三重野鳥の会」が発足した頃に入会させて頂き、野鳥を勉強するようになり、「野鳥の招き方」（発行所：文研出版）を読むようになってから、あの美しい鳥はジョウビタキであったと知りました。

また「しろちどり」の全身「あおさぎ」第6号（昭和53年9月発行）3頁・中川さんの記事からジョウビタキの好物はミールウオームと知り、小鳥屋でミールウオームを買って庭の餌台に置いてやりました。

ジョウビタキが、「岡崎さんの家の餌台にはミールウオームを出してくれる」ことを見つけると、それからは毎朝夜が明ける頃には餌台近くの庭木の間を姿をあらわし、そわそわしながら飛び移り、ミールウオームが出るのを待つようになりました。

餌台にミールウオームを置いて、私が餌台から2メートルも離れると、ジョウビタキは素早く餌台に来て喜んで？ミールウオームを食べます。

小雪の降る寒い或る朝、餌を出してくれるおじさんが出入りするガラス戸少し前の物干し竿に、ジョウビタキがしょんぼりと止まり、ミールウオームが出るのを待っていたこともあります。

また或る朝は待ちきれず、ガラス戸の外側5ミリ厚程の、ガラス戸の棧（さん）にしがみついて、羽をばたばたさせてミールウオームを催促していたこともありました。

ガラス戸を開け、ガラス戸から30センチ程内側畳の上にミールウオームを置いてやると、警戒しながら家の中に入り、食べました。

部屋の中の炬燵（こたつ）の上に紙をしいてミールウオームを置いてやり、かくれて見ていると、ジョウビタキは炬燵の上まで来てミールウオームを喜んで食べました。

ところが或る年、のどかな我が家の庭にジョウビタキの天敵？が現れました。モズです。餌台の上に残っていたミールウオームを見つけたのか、まだ少し暗いうちから餌台近くの木の枝に止まったり、餌台に座り込んで

ミールウオームを置くのをモズが待つようになりました。

ジョウビタキは近くにかくれていて、怖くて出てこれない。モズがミールウオームを食べ終わり餌台を去った後、ジョウビタキのためと思って、ミールウオームを置くと、飛び去ったはずのモズが又餌台に現れ食べてしまいます。

そこで一計を案じ、4～5メートル離れた植え込みの中の、少し小さい餌台にミールウオームを置くと、モズは何処かで私の行動を見ていたのか、私が餌台を離れると又出てきて食べてしまいました。

かくなる上は、ジョウビタキとウグイスには容易に止まれても、モズには止まらない餌台を作る以外に方法はありません。

そこで外径5センチ、長さ20センチの竹の筒を中央から二つ割にして、合わせ目に1センチ程の間隔片を挟み込み、針金で筒状に縛り、筒の両端にジョウビタキは止まれるがモズには止まらない小さい止まり木を固定し、これを植え込みの中、メジロ用砂糖水の餌台に隣接して吊り下げてやりました。

その結果は・・・ウグイス用としては大成功でしたが、ジョウビタキは位置がよくないのか一回も来てくれませんでした。

探鳥会報告

○愛宕川、櫛田川のシギ、チドリ (松阪市)

- ・日 時：1997年8月31日(日)10:00～12:00 晴
- ・担 当：西村四郎 中村洋子
- ・参加者：20名
- ・観察種：26種

アサギ コサギ キアシシギ ムクゲロ クリ ハシロヘイ スズメ ヒ イソノク エリシギ チユウ
キク タビサキ コトドリ アサシギ ツバメ カワサリ ムシジキ セッカ カサシギ トウネ
加ガモ 林ヨシサキ ムクドリ カサsp トバト シキsp
ここへ着いた時は鳥が少なく、どうしたのかなと思っ
ていたら、その後飛んできたのでよかったです。
愛宕川の河口は堤防が工事中の為行けませんでした。

○鈴鹿川派川探鳥会 (楠町五味塚)

- ・日 時：1997年9月28日(日)10:00～12:00 晴
- ・担 当：高 和義 鹿島素子
- ・参加者：30名
- ・観察種：22種

カウ コサギ タビサキ アサギ 加ガモ ハシロ クリ シロサギ ミヅシギ タビサキ マ
シギ イソノク キアシシギ ムシジキ セッカ カサシギ トウネ
イ スズメ ムクドリ
何よりも快晴であったことが良かった。カモメ類は約
4000羽と多かった。シギ類の種類、数も少なくして少
し残念。探鳥会後の交流会はおにぎりを食べながら現
地で車座になって行ったが、自然の中での交流会であ
りよかったと思う。

○亀山一金探鳥会 (亀山市橋世町)

- ・日 時：1997年10月3日(金)9:00～12:30 晴
- ・担 当：橋原 葵 伊藤多紀子
- ・参加者：13名
- ・観察種：24種

カウ タビサキ コサギ アサギ 加ガモ ハシロ クリ タウゲノボウキ サイ イソノク サバト
ト カサシギ セッカ イソノヘイ ヒトリ エキ イガ ヤマガラ ヒシロ スズメ
ムクドリ カサ ルボソガラス
「飛ぶ」と言うテーマは難しい。開始の時少々話しただ
けだった。むく川の両岸の草や河床の石が刈られ丸裸
の状態となっている。このような状態ではアサギ、シユウカ
ウ、サシロなど冬場の鳥は望み得ない。

○タカ渡り探鳥会 (伊勢市やすらぎ公園)

- ・日 時：1997年10月5日(日)8:00～11:00 曇
- ・担 当：林 淳子
- ・参加者：47名
- ・観察種：17種

サバト ミコト ビ ツバメ ショウウツバメ ムシジキ アサギ セッカ イソノヘイ ヒトリ
カワサリ サバト エキ ヒシロ ルボソガラス ルボトガラス カウ
サバトは100羽余りだったが、10～20羽のタカ柱
や、上昇気流をとらえ次々と滑るように渡っていくの
や、背後の三郷山に降りて餌を採ったり、小休止してい
るのや、それが飛び立ち低空で帆翔するの等、いろい
ろな場面を観察することが出来た。(今日のサバト達は前日
伊良子岬を出て、鳥羽、伊勢の小山に留まっていたのが
飛び立ったものと思われる。

○亀山水曜探鳥会 (亀山市江ヶ室町)

- ・日 時：1997年10月15日(水)9:20～12:00 晴
- ・担 当：伊藤多紀子 橋原 葵
- ・参加者：17名
- ・観察種：24種

カウ コサギ タビサキ アサギ 加ガモ ハシロ クリ ハシロコソウイ サイ サバト マ
ツバメ カサシギ ツバメ セッカ イソノヘイ ヒトリ エキ ヒシロ ヒシロ スズメ ムク
ドリ ルボソガラス ルボトガラス
レンズを通してみる鳥に感動して言葉に表せない初参
加者：久しぶりの探鳥会だったが皆様日時を忘れずに
参加して下さいました。田圃の近くでルボトに出逢い秋
を感じた。又、鳥も昨年と同様のコースを飛んできたの
かと思うと胸がいっぱいになり鳥さんありがとうと言
いたくなった。

○三郷山探鳥会 (伊勢市)

- ・日 時：1997年10月16日(木)9:10～12:00 晴
- ・担 当：吉居瑞穂 林 淳子
- ・参加者：15名

- ・観察種：20種

イガ ヤマガラ コガラ ヒシロ ミコト ビ ハシロ カサsp ツバメ ヒトリ エキ ヒシロsp
カワサリ ヒシロ クイ 伽 コサギ タビサキ アサギ
野外を歩いてても、こんなに色々なものが見えると楽し
いですね。(鳥、虫、ヘビ、ムササビの食痕、野草、きの
この観察、木の実の試食会、など)
10月中旬頃に見られる小鳥類を見る企画でしたが、渡
り鳥はツバメの三羽のみで、例年とは異なる渡りの状況
のようです。

○白猪山探鳥会 (松阪市、飯南町)

- ・日 時：1997年11月16日(日)9:30～15:00 晴
- ・担 当：西村四郎 中村洋子
- ・参加者：20名
- ・観察種：18種

ヒトリ ヤマガラ ショウヘイサキ ヒシロ ヒシロ クイ ミヅシギ クイ ヒシロ コガラ ルボ
トガラス ルボソガラス ヒシロ シユウカ イガ シハラ アサギ カサ
小春日和で紅葉も見頃でした。急登だったのでしんど
かったです。

○亀山水曜探鳥会 (亀山市)

- ・日 時：1997年11月19日(水)9:20～12:15 晴
- ・担 当：橋原 葵
- ・参加者：16名
- ・観察種：26種

カウ コサギ タビサキ アサギ 加ガモ ハシロ クリ サシロ カサシギ ヒトリ
コガラ セッカ ヒシロ ヒトリ エキ ショウヘイ クイ シユウカ ヒシロ アサ
ギ カサsp ツバメ ルボソガラス ルボトガラス
今日は鳥の数が少なかった。
果実の色の変化と鳥の採餌一運搬について
ササキ、シヤンボ、カササキ、モ、カサミ/等色付いているが鳥は
食べに来ていないようだ。カサミの実をヒトリが食べに
来ているようであるが、隠れていて見えない。カウヒワがス
ギの種子を食べに来ていた。

○三滝川探鳥会(三重郡菟野町)

- ・日 時：1997年11月21日(金)9:30～12:10 曇
- ・担 当：矢田栄史 尾畑玲子
- ・参加者：13名
- ・観察種：21種

ヒトリ セッカ イソノヘイ ヒトリ サバト ショウヘイ ヒシロ シユウカ カサカカ ヒシロ ヒ
トリ コガラ スズメ ヒシロ ルボトガラス ルボソガラス イガ カサヒワ クイ ハワ
サ(?) ハシロ(?) セッカ
・川の工事について もっとと緑を残せないものか
・今年初めてショウヘイを見た
・タカの見分けは難しい

○真泥池探鳥会 (大山田村)

- ・日 時：1997年11月30日(日)10:00～12:30 曇
- ・担 当：前澤昭彦 武田恵世
- ・参加者：100名
- ・観察種：20種

アサギ セッカ ヒシロ ヒシロ ヒシロ スズメ ルボソガラス 加ガモ マカモ ショウヘ
イ クイ シユウカ イガ カサヒワ ヒトリ ヒシロ ルボトガラス タウゲノボウ エキ
コウ
野鳥の会他2団体同時乗り入れ探鳥会で真泥池周辺は
ゴツガエシしました。

○亀山一金探鳥会 (亀山市)

- ・日 時：1997年12月5日(金)9:00～12:15 晴
- ・担 当：橋原 葵 伊藤多紀子
- ・参加者：16名
- ・観察種：24種

カウ サシロ クリ イソノク サバト カサミ コガラ セッカ イソノヘイ セッカ ヒシロ
ヒシロ エキ ショウヘイ クイ イガ ヒシロ ヒシロ カサヒワ 伽 スズメ ムク
ドリ ルボトガラス ルボソガラス
川の法面や石が刈られて美しくなったので張り合いが
なくなった。イガ、シユウカ、ヤマガラが少ないようである。
例年来ていたカケスが1羽も鳴かない。むく川のヨ
シが刈られ堆積した砂が取り除かれたためアサギがい
ない。ルボソガラスが棒きれを落下させ、空中キャッチして
いた。

○亀山水曜探鳥会 (亀山市)

- ・日 時：1997年12月10日(水)9:40～12:00 晴
- ・担 当：伊藤多紀子 橋原 葵
- ・参加者：9名

・観察種：9種

コガラ ヒトリ ジョウビ 柳 柳 柳 ショウガ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ
小鳥の種類も少なかったが、いつもの神社コースと違
い色々な植物がある。人の手が入ってない森を手近に
見られた。たいぼくもおおい、この自然を後世まで残し
たい。

○中央緑地探鳥会 (四日市市中央緑地公園)

- ・日 時：1997年12月11日(木)10:00～12:00 晴
- ・担 当：濱中明代 杉野幸子
- ・参加者：18名
- ・観察種：21種

加ガモ コガモ カウ コサキ タイサキ コサキ ショウガ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ

この冬は冬鳥がまだ少ない様で、カス、ムナリ、ヒトリ、りばかり
が目につく探鳥会でした。それでもウグイス、ショウガ、鷺
、アサが一瞬姿を見せてくれました。また公園の北側
を流れる鹿化川ではコガモ、カガモの群れている様子を
ゆっくり観察することが出来ました。

○二つ池探鳥会 (伊勢市)

- ・日 時：1997年12月14日(日)10:00～12:10 晴
- ・担 当：世古口有司
- ・参加者：46名
- ・観察種：24種

カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ

好天に恵まれ楽しく探鳥会が出来た。グループに分け
たのが良かったが、事前に話をせずグループリーダー
をお願いしたので迷惑をかけた。なお”目立っている
鳥”のまとめではオカビロがNo.1だった。

○支部研修会 (伊勢市 いせトピア)

- ・日 時：1997年12月14日(日)13:30～ 晴
 - ・担 当：世古口有司
 - ・参加者：13名
- 杉浦支部長の講演を中心にして、それに対する質問、意
見を交えて懇談を行った。

○松下探鳥会 (二見町)

- ・日 時：1997年12月18日(木)9:10～12:00 晴
- ・担 当：林 淳子
- ・参加者：13名
- ・観察種：25種

スズメ ヒトリ セグロヒトリ アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ
ウグイス ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ
カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ

海岸部の山あり谷ありの雑木林、植林帯、田圃、湿地帯
と心安らぐ懐かしい風景、でも多様な環境に適應する
今日の鳥ツグミが観察されなかった。海岸部で見られ
たカサキ、飛ぶ姿だけだったので少し残念だった。

○多度探鳥会 (多度町揖斐川)

- ・日 時：1997年12月21日(日)9:30～12:00 晴
- ・担 当：近藤義孝
- ・参加者：11名
- ・観察種：28種

アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ
ウグイス ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ
カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ

芦原のオシロイを見る目標を達成する前に、ハヤブサ、ハイロ
、ミコトと次々に現れました。オシロイは見つかりませ
んでしたが、みんな満足できる探鳥会でした。

○安濃ダムオシドリ探鳥会 (安芸郡)

- ・日 時：1997年12月23日(火)10:00～
- ・担 当：平井正司
- ・参加者：18名
- ・観察種：13種

ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ
カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ

オシロイは昨年より多く、約50羽が観察され、飛来数の
減少に歯止めがかかったように見えた。日を浴びて湖
面を群飛する姿に魅せられた。ヒトリが3羽が飛来して

り、特徴を確認した。横山池では水量が少なかったが、
ミドリメスのメスが見られた。また頭上をハイブが飛んだ。種
類は少なかったが、比較的希な種類が楽しめた。

○亀山水曜探鳥会 (亀山市)

- ・日 時：1998年1月14日(水)9:20～12:00 曇
- ・担 当：伊藤多紀子 植原 葵
- ・参加者：12名
- ・観察種：26種

カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ

月例探鳥会でなくなったのでとても残念。アサ、ヒメが数
羽出て感動した。昨年沢山来たウグイスが今年はまだ渡来し
ていない、食害があっても今年も来てほしい。

○中部台運動公園探鳥会 (松阪市)

- ・日 時：1998年1月17日(土)9:30～12:00 晴
- ・担 当：中村洋子 宮田たつ
- ・参加者：14名
- ・観察種：28種

ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ
カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ

風もなく良いお天気に恵まれ、思ったよりも鳥がいま
した。もうヤマガらが”ツツピー”と囀っていました。

○南部丘陵公園探鳥会 (四日市市)

- ・日 時：1998年1月22日(木)10:00～12:00 晴
- ・担 当：濱中明代
- ・参加者：9名
- ・観察種：17種

ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ
カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ

鳥が少なかったが、最後にノリが出て良かった。一月に
入っても冬鳥の姿が少ない。

○神路ダム探鳥会 (志摩郡磯部町)

- ・日 時：1998年1月22日(木)9:00～12:00 晴
- ・担 当：中村みつ子 松本恵里子
- ・参加者：11名
- ・観察種：23種

ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ アサ ヒトリ
カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ

初めて見る霜柱に感動していたのは生まれて40年
もたっている人でした。天気も良く探鳥会にはよい一日
でした。オシロイは120羽くらいいたが材木、ノリ等タカ類
が出るので落ち着かない様子だった。ダムの周りには
高いフェンスが巡らせてあるにもかかわらずテグスが
放置されているのは悲しいことですね。

○安濃川探鳥会 (津市)

- ・日 時：1998年1月25日(日)9:30～11:30 晴
- ・担 当：橋本富三
- ・参加者：22名
- ・観察種：31種

カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ

常連のカウアサやオシロイも見られず鳥の種類は過去5年間
で最低を記録。しかし今年一番の冷え込みのせい、大
規模な蟹気楼が出現、知多半島や神島が伊勢湾上に浮
き上がったり、船のマストが途中から逆転し海面に写
るように見え、一同自然からの思わぬプレゼントに大
喜び、10分間の短い蟹気楼ウォッチングを楽しんだ。

○宝光池探鳥会 (松阪市)

- ・日 時：1998年2月2日(月)9:30～11:30 晴
- ・担 当：中村洋子 宮田たつ
- ・参加者：13名
- ・観察種：19種

カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ カウ アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ
ヒトリ アサ 鷺 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ 鷺 アサ

オシロイがとてもきれいだった。メスの涙目もよくわかり

ました。以前よりもハシカが増えたように思いました。

○亀山一金探鳥会 (亀山市)

- ・日時: 1998年2月6日(金)9:00~12:10 晴
・担当: 楢原 葵
・参加者: 14名
・観察種: 22種
カウ コサキ 幼鳥トリ 羽 杉ノト 社サレイ ハサレイ セウロサレイ 死バリ ヒヨトリ モ...

今日は鳥の種類も数も少なかった。野鳥の生息場所である芦原、森林、湿地がどんどん減少している。

○穴川探鳥会 (志摩郡磯部町)

- ・日時: 1998年2月8日(日)10:00~12:00 晴
・担当: 今村 禎
・参加者: 25名
・観察種: 38+1種

ミコト 加セミ アサギ 林ノロ カウ ヲサガモ トビ オハシ...

風もなくぽかぽか陽気の探鳥会、前半鳥が出ず困りましたが、養魚池では、空にはミコト、池では10種類のカモに加セミがじっくり観察できまずの探鳥会でした。...

○大山田村バードウォッチング (真泥池)

- ・日時: 1998年2月15日
・担当: 武田 恵世
・参加者: 34名
・観察種: 30種
セウロサレイ ハサレイ 社サレイ 幼鳥トリ 林ノロ 幼鳥 ヤマガラ カウツリ 幼鳥...

○岩田池探鳥会 (津市)

- ・日時: 1998年2月15日(日)9:30~12:00 曇
・担当: 西浦 克征
・参加者: 9名
・観察種: 26種
杉ノト スズガモ ハシカモ セウロサレイ マカモ コガモ 杉ノガモ 林ノ...

○勝田大池探鳥会 (度会郡玉城町)

- ・日時: 1998年2月28日(土)9:30~11:30 晴
・担当: 西村 泉 西村 幹和
カウ アサギ ハサレイ 杉ノト 幼鳥トリ 幼鳥トリ 幼鳥トリ...

○尾鷲探鳥会 (北牟婁郡海山町)

- ・日時: 1998年3月1日(日)10:00~14:20 晴
・担当: 三村 通雄 三村 明子
・参加者: 13名
・観察種: 26種
ハシカモ スズガモ ハシカモ セウロサレイ マカモ コガモ 杉ノガモ...

春本番の日差しでしたが強風のため寒い一日でした。ツクシ、セリ摘みも楽しみました。

○松阪公園探鳥会 (松阪市)

- ・日時: 1998年3月7日(土)9:30~11:45 曇~晴
・担当: 中村 洋子
・参加者: 12名
・観察種: 15種
ハシカモ スズガモ ハシカモ セウロサレイ マカモ コガモ 杉ノガモ...

交流会報告

- ・日時: 1998年9月28日午後
・担当: 高 和義、鹿島 素子
・参加者: 20名
食事後順次、自己紹介、探鳥歴、好きな鳥、関心事など発表した。

- 1. 好きな鳥または印象深い鳥のコメント。
カモメ類
・今日ウミツバメやセウロサレイの若鳥の識別の勉強が出来た。
・日常山の近くで生活しているの、山野の鳥はよく見れるが、海辺の鳥を見る機会が少ない。今日はその海鳥を沢山見ることが出来た良かった。
ミコトトリ...いろんな鳥を見たが一番印象に残っている。
加セミ...初めて加セミを見て感激、以後バードウォッチングや写真を撮り始めた。
ヤマセミ...母が亡くなった直後に出逢い、母が乗り移ったような気がして感無量であった。
オウソウ...3年くらい前湖北町で見た。現場に到着してから僅か30分程して飛び立つのが見られた。
カサガサ...すぐにヒンギス始めたが、航空母艦に漁船がまとわりついているようでした。
アサギ...奥山の仕事に行っている時、'キョロロロ...'という鳴き声を聞いた。はじめは録音かと思ったが、注意していたら目の前を赤い鳥がほんの1秒くらい横切り、感激すると共に仕事に来ていて良かったと思った。
セウロサレイ...5月頃セウロサレイの子育てを観察した。虫をライグキャッチし、ヒナに与えているのを見た。
・白子の駅前木に100羽以上のセウロサレイの雛がある。台風で葉が落ちた後でも、相変わらず多数のセウロサレイが雛を作っている。
タカノ渡り...10/5伊勢市やすらぎ公園で伊良子から渡って来るタカを見る探鳥会がある。椅子を用意してじっくり見て下さい。
・多度山のタカ渡りは今日当たりが一番良さそう。
その他...野鳥の他に蝶やトンボにも興味がある。先だって珍しいムギサキを見つけた。
・NHKの「野鳥百景」は最近放映していないようだ。ビデオはあるのだろうか?
環境保護...環境保護の重要性、亀山の椿世での住宅団地の開発に対する歯止めの難しさ、宮川や赤目の森での環境保護活動、インドネシアの森林火災での地球環境悪化などが話し合われた。
保護部活動報告...吉崎海岸、田中川、豊津浦海岸のシロトトリ繁殖保護活動と、三滝川河川敷公園化工事の対応策の説明があった。
・頭上すれすれを懸命に飛ぶツバメや我々を見に来るカモメ達を見ながら、自然の中での誠に心地よい交流会でした。(鹿島)
・青空の下、車座になって気の置けない仲間が、それぞれ温めていた野鳥の話や自然保護の大切さを語り合い、有意義な交流が出来たと思う。(高)

平成10年1月25日、サンワーク津で行われた『つけよう！いかそう！フィールドノート』に、24名の方が参加され、有意義な研修会になりました。

以下にその概要を紹介します。

① フィールドノートをもっと楽しく

1 アンケートのまとめ紹介

詳細は「別紙」アンケート結果報告をごらんください。

2 解決しようフィールドノートに悩み（話し合い）

参加者を4グループに分わけて次のようなことを話し合いました。

* 場所別、テーマ別にノートに分ける。

* 1冊にメモし帰宅後バインダーに場所別に整理する。

* 目的に添った内容で記入する。

* 下手でもよいから絵を書くことで忘れない。

* 野鳥の会のフィールドノートの記入例を参考にする。

* 探鳥会ではリーダー以外に記録係が必要である。

* 気温、水温、水のpH度を記入している。

* ペンはインクのにじまない水性ペンがよい。

* 鳥以外にも新聞で見た事、落ちていた葉っぱ、木の実の事等も記入する。

* 15年ぐらい見ていると鳥の種類も変わってきている事が分かる。

* 10年前に比べ数も種類も減っているようだがデータ不足で証明できない。

② フィールドノートと私（お話）

1 鹿島素子さんは、その日にであった事柄を素敵な絵日記風にまとめる。

2 山田陽一郎さんは、記録の重要性を認識し、現場での簡単なスケッチを元に帰宅後
図鑑などを見てさらに詳細な書き込みをする。

3 平井正志さんは、ノートをつける目的をはっきりさせる事が大切であり、調査の時
は目的に添った個別のファイルを用意する。

パソコンは一旦データを入力すればその加工が容易なので皆さんにもお勧めしたい。

③ フィールドノートについての杉浦支部長のお話

1 ノートをつける事について

* 自分が楽しむためが良いが、それがすこしでも社会に還元出来ないか考えよう。

* 環境破壊が進んでいると言っても、データ不足では開発側を説得できない。

2 ノートをつける上で大切なことについて

* ノルマになってつけることがつらくなってはいけない。

- *細かい方法論、マニュアルにこだわらず自分なりの方法で楽しくつける、その意味でスケッチも良い。
 - *目的意識を持った調査が必要。数値による客観的なデータ収集に心掛ける。
 - *野鳥の数が多ければカウントは大雑把でよい。数値化する事が大切である。
 - *自分の指の長さや歩幅、胸の高さを使って自分なりの物差しを作っておくと便利で、数値による客観的なデータ作りの一助になる。
 - *調査項目を多くすると、後日どの様な視点からでもそのデータが活用出来る。
 - *ノートは方眼のついたB6判程度が持ちやすくスケッチも出来て使いやすい。
- 3 ご自身の体験から言えること
- *月1回、時間と範囲を決めて30分間同じスピードで道の両側25mのラインセンサスを17年間行った。現在そのまとめを行っているが、河川改修など開発の影響による固体数の減少をはっきり指摘出来る。
 - *各自がノートを取る事に関心を持てば、全国的なメッシュ調査への参加も底辺が広がって、正確なものが容易にできる。
 - *今後は、絵日記や俳句をとり入れた楽しいものにしていきたい。
等貴重なお話を頂きました。

以上

[企画した担当者の独り言]

- * テーマが地味だったので参加者が少ないのではないかと不安だったけど、たくさんの人に集まっていただきました。
- * 講師を快く引き受けていただいた人、積極的にグループディスカッションしていただいた参加者、アンケートを寄せてくれた皆さん本当にありがとうございました。
- * 研修のプログラムも良かった（担当者の自画自賛）。フィールドノートをただのメモで終わらせては勿体ないことが、わかってもらえたのではないのでしょうか。ウン、ウン（参加者納得？）
- * この研修会での結果を発展させて、また違ったテーマに持っていくきっかけが来たように思いました。
- * 資料が3人に一部ぐらいしかなくて済みません。でもその分森の木を少し切らずに済みました。それと皆さんに感想をお話ししていただく時間を取るのを忘れました。御免なさい。

フィールドノートアンケート結果報告

1 始めに

企画部会議の中でフィールドノートを楽しくつけるにはどうすれば良いか、皆さんの
お知恵を拝借してはどうかという事になり、全会員にアンケートをお願いしたところ約
1割の方から貴重なご意見をいただいたので集約結果を報告します。

2 アンケート項目別集約結果

①探鳥歴はどれくらいですか。

項目	人数	%
0～5年	30	59
6～10年	12	23
11～20年	8	16
21年以上	1	2
計	51	

◎個別に送っていただいたほか、探鳥会時にアンケートをお願いしたせいか比較的探鳥歴の浅い方からのご意見が多かったようです。

②フィールドノートに記入していますか。

項目	人数	%
いつも記入している	30	60
時々記入している	9	18
余り記入しない	5	10
全く記入しない	6	12

◎フィールドノートは4：1の比率で記入する人が記入しない人を上回っています。
この比率はビギナー、ベテランに関係なく同様に個人の性格、好みの問題でしょうか。

③どんなフィールドノートを使用していますか。

項目	人数	%
野鳥の会ノート	8	17
手帳	27	55
大判ノート	4	8
オリジナル用紙	5	10
その他(具体的に)	5	10

どんな ・コクヨCampus B6
ノート ・ルーズリーフ式手帳
(内訳) ・総合的なフィールド絵日記
・家計簿の一面に記入
・罫線だけの手帳
・測量用野帳 等

◎家計簿に一面に書いているのは主婦らしくて微笑ましいと思います。それにしても野鳥の会ノートが意外と使われていないのはなぜでしょうか。

④フィールドノート記入の目的はなんですか。(複数回答可)

項目	人数	%
忘れないための記録	43	70
定期・定点観測データ	12	20
皆が書いているから	2	3
その他(具体的に)	4	7

記入の ・年間を通じてのオシドリ観察
目的 ・行動を深く観察したいから 等
(内訳) ・初見の場合後で調べるための参
考となる特徴を記入。

◎目的は忘れないための記録が一番多いようです。

⑤どんな時にフィールドノートをつけていますか。(複数回答可)

項目	人数	%
探鳥会・観察会の時	39	54
日常的にほとんど毎日	4	5
自分のフィールド観察の時	27	37
その他(具体的に)	3	4

どんな時 ・自然観察の時
ノートを ・旅先等
つけるか ・日常で特記事項のある時
 (内訳) ・サシバの渡り定点記録
 ・動物学会での観察時 等

◎自分のフィールドを決め、観察を楽しんでおられる方が多くみえるようです。

⑥どんな事を記入していますか。(複数回答可)

項目	人数	%	項目	人数	%
野鳥の名前	43	26	数	17	10
性別	11	7	囀りや地鳴き	16	9
特徴	15	9	生息環境	8	5
生態(何をしていたか)	10	6	野鳥以外の動植物	25	15
天候・潮汐	15	9	その他(スケッチ等)	7	4

ノートにどんな事を記入するか (内訳)

- ・探鳥会、観察会の場所、開始終了時刻、参加者名、人数。
- ・始めてみた種類には赤マークをつける。
- ・カタログを見ても判らないとき、初めてみたものはスケッチし、特徴を記入。
- ・相違点などをスケッチしたり書きとめる。
- ・特に印象的だったものはペン画にしている。
- ・換羽期、産卵の様子、抱卵、巣立。
- ・雄、雌等ははっきり分かるときのみ、数の記入は、前に出たのも複数カウントする可能性があり確定が難しい。
- ・餌の食べ具合、雌への求愛。
- ・その日気付いた事、感想を短い日記に書いておくその後でその時の事を思い出す。
- ・フィールドで起こった事柄、変わった生態、特別な行動、庭での出来事、飼いだのしぐさ。
- ・花の開花、ツバメとかモズの高鳴、季節の移行を感じるものの初認、終認 等。

◎野鳥の名前は当然としてもその数や生息環境を記入している人、その他独自に記入されている方が多くフィールドノートをつける時ヒントになる事柄が多くあります。

⑦つけたフィールドノートを整理していますか

項目	人数	%
整理している	8	19
整理していない	34	79
する必要を感じない	1	2

整理 ・整理していないが特定の手帳
状況 に記入し過去の実績がわかる
 (内訳) ようにしている。
 ・フィールドノートをナンバリングしている。
 ・将来はパソコン化したい 等。

◎整理していない人がほとんどですが、自分なりに工夫してまとめている人もみえるようです。

⑧自分のフィールドノートの満足していますか。していないとすればどんな点が不満ですか

項目	人数	%
満足	7	41
不満	10	59

どんな点が不満ですか。

- ・野鳥のスケッチが下手なので色彩、デザインが正確な図鑑の野鳥の空白に記入
- ・整理していない、整理が下手。
- ・鳥の名前とか数を一々書き込まずチェックするだけの用紙があるとよい。
- ・ページ数、筆記用具のホルダーが無い事。
- ・データをもっと詳しく残しておきたい。
- ・記録書式がバラバラ、統一がされていない 等。
- ・沢山書くためノートがすぐに無くなる。
- ・たまに見直す時、どこになにが書いてあるか見つけられない。
- ・これでいいという書き方が定まらない（野鳥と他の動植物を別けて記入するか等）
- ・持ちはこびに便利のように一枚ずつ切離したりできるもの

◎無回答が多いのでよく判りませんが、回答を頂いた人のうちでは不満が少し多いようです。不満の内容としては、記載データの不足、不正確、整理されていない事が主なものになっています。

3 まとめ

多くの方がフィールドノートはつけているもののデータの整理がなされず書きっ放しになっているようです。しかし中には絵日記風にまとめたり始めてみたり、鳥をスケッチして印象を深めたり、鳥の行動や植物、季節の移り変わりを記入して楽しんでおられる方も多くみえます。

また、各人の貴重なデータが整理されずそのままになっているために活用が個人のレベルに止まっているのは残念な事です。それらが公開されればもっと生きたデータになるのではないのでしょうか。

これらを参考にご自分のフィールドノートをより充実されてはいかがでしょうか。最後になりましたがアンケートにご協力頂いた会員の方に厚く御礼申し上げます。

「しろどり」の原稿大募集！！

◎次号（20号 98年5月発行）の特集は「気になる鳥の初認終認」です。

貴方にとって気になる鳥にまつわる話なら何でもOK！ 例えば…

あなたの街でツバメの初認は？ツグミの終認は？

面白い生態、気になる鳥の今昔

◎「夏鳥が減った？」と言われていますが、あなたのフィールドではいかがですか？

◎支部への要望、鳥、自然について日頃思うこと…

お手紙に書いて、たくさんお送り下さい。

◎原稿は随時受け付けています。

編集部一同待っています。

◎原稿の送り方

(1)郵送	:	谷本勢津雄 宛
(2)F A X	:	谷本勢津雄 宛
(3)電子メール	:	吉居 瑞穂 宛

編集後記

表紙の絵を描いて下さった松井さんの展覧会のお知らせ

●「野鳥のうた」 まついあけみ展

日時：5月1日（金）～ 31日（日）

場所：松坂屋四日市店 4F. 喫茶ドナ せつこの店

三重県四日市市安島1-3 TEL0593-55-1111（代）

内容：フクロウ、スズメ、メジロなど野鳥の細密画。中でもフクロウは幼鳥を描いた作品を数点出品しています。

詳細：TEL

松井まで

カット

鹿島素子 小坂里香

しろどり第19号

1997年11月発行

表紙絵 題字 濱田 稔

編集 谷本勢津雄

TEL

発行者 財団法人日本野鳥の会三重県支部

〒516 伊勢市宇治浦田2丁目9-4 杉浦邦彦方

TEL

印刷 館印刷 〒510-13 三重郡菟野町田口1903-3